

SDGs

コミュニケーション
ブック 2023

リコージャパン株式会社

RICOH
imagine. change.

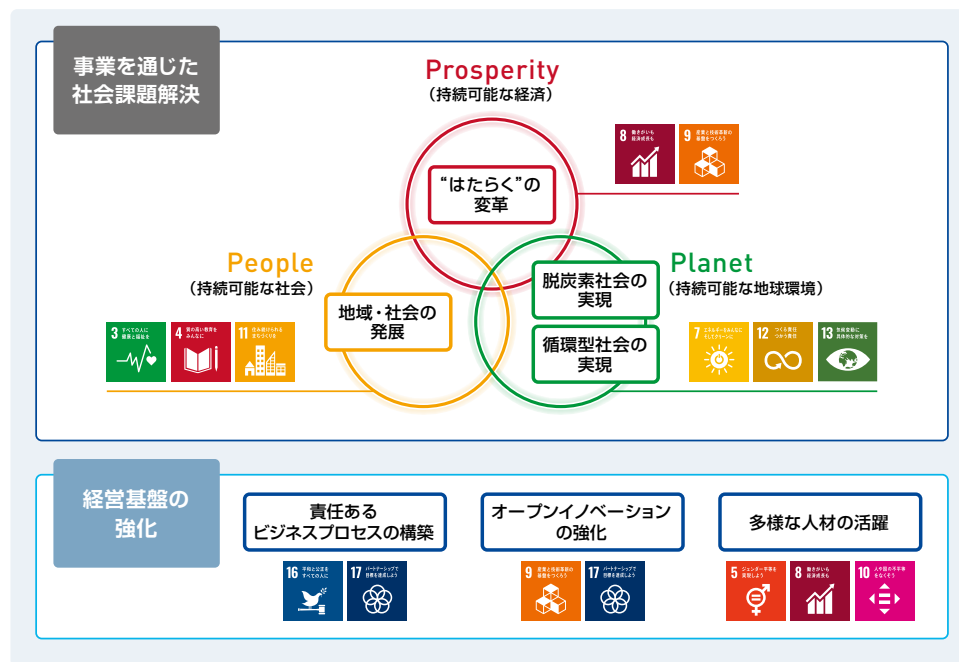


マテリアリティとサステナビリティ目標

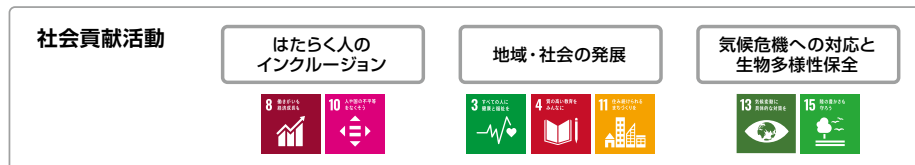


リコージャパンでは、リコーグループが「将来財務目標」として設定する第21次中期経営戦略のESG目標を踏まえて、マテリアリティに沿った17のサステナビリティ目標を設定しました。目標設定にあたっては、リコージャパンの経営戦略、事業戦略に紐づけて、各部門とサステナビリティ推進部門で素案を作成し、経営会議での審議を経て決定しています。

● リコーグループの7つのマテリアリティ



● 社会貢献の重点分野



マテリアリティ	リコージャパンのサステナビリティ指標	2023年度目標	2025年度目標	
製品・サービスを通じての貢献	“はたらく”の变革	① 顧客からの評価：価値共創パートナー度	26%	29%
		② 貢献するワークプレイス数	14万カ所	17万カ所
		③ 時間創出効果	5,830万時間	6,500万時間
	地域・社会の発展	④ 生活基盤向上貢献人数	1,390万人	1,800万人
	脱炭素社会の実現	⑤ 製品・サービスによるCO2削減量	17,100t	31,600t
	循環型社会の実現	⑥ 主要複合機および再生機による新規資源削減量	2,400t	—*2
自社・パートナーと取り組む貢献	脱炭素社会の実現	⑦ 自社のCO2排出量 (2015年度比CO2排出削減率)	21,700t (▲31.4%)	18,700t (▲40.9%)
	責任あるビジネスプロセスの構築	⑧ 人権影響評価のスコア向上	人権リスクレベルの把握	—*2
		⑨ 仕入先パートナー行動規範署名率	100% (既存)	100% (新規)
		⑩ 社員の情報セキュリティ意識の向上	意識レベルの把握	—*2
		⑪ 低コンプライアンスリスク組織比率	80%以上	80%以上
		⑫ コンプライアンス感度DI*1のネガティブ回答組織割合	40%以下	30%以下
	オープンイノベーションの強化	⑬ RICOH BUSINESS BOOSTERの共創プロジェクトで創出した新規案件数	6件	—*2
	多様な人材の活躍	⑭ プロフェッショナル認定レベル3以上社員数	4,050名	6,070名
		⑮ 社員一人あたりの学習時間	80時間	80時間
		⑯ 社員エンゲージメントスコア	35	40
		⑰ 女性管理職比率	7.2%	8.0%

*1 DI：ディフュージョン・インデックスの略。ポジティブからネガティブを引いた数値

*2 2024年度以降、順次設定予定

リコージャパンのSDGsアクション

リコージャパンはSDGsを社内に浸透させ、社外にも広める活動を展開してきました。ステークホルダーの皆様とともに、SDGsの達成に向けて歩みを進めていきます。

SDGs キーパーソンが誕生!

社内外にSDGsの取り組みを推進するSDGsキーパーソン制度がスタート。2023年6月には700名に。

2018 経営トップのコミットメント

リコー山下社長(当時)がSDGsを経営の中心に据えることを宣言。

2017 リコーがマテリアリティを発表 (重要社会問題)

重要社会課題をSDGsに紐づけて設定。

2016 SDGsを勉強会で説明

CSR報告書をベースにした勉強会を実施。2年間で延べ1万人が受講。

2018 SDGs強化月間

全社員でSDGsへの貢献を実践する強化月間を開始。

2020

省エネ性能の高い複合機をお客様に導入いただくごとに、東南アジアに1本植林。累計31万本にのぼります。

2021

サステナビリティ目標の設定

リコーグループが掲げるマテリアリティをもとに、リコージャパンとして取り組むべき目標を定めました。

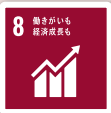
2023

第21次中期経営戦略 (2023～2025年度)

中期経営戦略に沿って、サステナビリティ目標を改定し、取り組みを進めています。

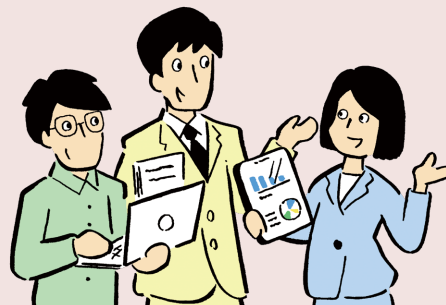


マングローブ植林活動を スタート



働きがいも経済成長も

少子高齢化による労働力不足が深刻化し、長時間労働の常態化や労働環境の悪化、待遇の格差などが社会問題になっています。SDGsが掲げる「ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」の実現には、デジタルの力が欠かせません。リコージャパンでは、自社での実践により培ってきたワークプレイスのデジタル化のノウハウを活かして、お客様の「はたらく喜び」を支え、喜びの連鎖を広げていくことで、働きがいと経済成長が両立する持続可能な社会の実現を目指します。



現状

人手不足による長時間労働や労働環境の悪化などが、人々の心身に大きな負担を与えている。

解決策

デジタル化による作業の効率化や生産性向上によって、人間らしい創造性のある仕事に集中することができる環境を整える。

リコージャパンへの期待

社内実践で得たノウハウから、社会全体の「ワークスタイルの変革」に貢献することが期待されている。

今後の目標や展望

業務プロセスの改革やデジタル化を図ることは、業務効率の向上と同時にデータ分析による可視化・共有化で新たな気づきを得ることが可能となり、次の打ち手が変わるなど、意識と行動の質が変わります。リコージャパンでは、お客様の業務課題を解決するため、業種・業務別のソリューションをパッケージ化した中小企業向けの「スクラムパッケージ」と、個々のお客様のニーズに合わせてカスタマイズする中堅企業向けの「スクラムアセット」を提供しています。社内実践で得たノウハウを踏まえて、持続可能な社会をステークホルダーの皆様と築き、働くすべての方々の自己実現と国内外の経済成長に貢献してまいります。



室岡 友紀
デジタルサービス企画本部
スクラム企画センター スクラムアセット企画室 室長

社会へのインパクト

作業効率の向上や遠隔地とのスムーズなコミュニケーションの実現による

時間創出効果

6,500万時間
(2025年度目標)

5,325万時間
(2022年度実績)

社内の取り組み事例

北海道支社版DX基本の「き」

北海道支社は、DXの下地づくりとして、保管スペースを決めて紙文書や不要な物品を削減。ペーパーレス会議の実践や契約の電子化、RPAによる業績報告の自動化など業務のデジタル化を推進しています。こうした「社内実践のリアル」をLiveOffice ViCreA*でお客様に紹介しています。

* ViCreA (ヴィクレア): Value innovation Creative Area

来客エリアでは、デジタルツールを活用して、旬なソリューションや社員の活動をお客様に発信しています



宮崎事業所の働きやすいオフィス

フリーアドレスの居室には、コミュニケーションが活性化する「ひなたスペース」の他にオンライン会議や集中したいときに使える個別ブースを設置。会議室は宮崎県産杉の端材を使った机で落ち着いた雰囲気。ひなたスペースは災害時の災害対策本部としての機能も持ち合わせています。



「ひなたスペース」は、組織を越えたコミュニケーションの活性化を体感できる空間です

「みつばち娘」によるいきいき山梨づくり

山梨支社では、女性ワーキンググループ「みつばち娘」による社員がいきいき働くための活動を行っています。子どもたちに自分たちの働く姿をってもらう「ファミリー DAY」、社員の人となりを紹介する社内ラジオ配信などを企画実施。その結果、女性社員のエンゲージメントが23.3ポイントも改善しました。



社内ラジオ配信の様子。各事業所ではRICOH IWBで視聴できます



気候変動に具体的な対策を

気候変動問題に関する国際的な枠組みである「パリ協定」が採択されて以降、世界各国で取り組みが進められていますが、世界の平均気温は今なお上昇を続けています。日本国内においても、政府が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げていますが、この達成のためには産業構造や社会・経済を変革していくことが求められます。リコージャパンでは、「脱炭素社会の実現」を経営の重要課題の一つと捉え、さまざまな活動を推進しています。



現状

世界全体のCO₂排出抑制は順調とは言えず、気候変動に起因する自然災害のリスクがさらに高まっている。

解決策

カーボンニュートラル実現に向け、工場や事務所の消費電力の削減、製品やサービスの使用時におけるCO₂排出削減などに企業が取り組む。

リコージャパンへの期待

リコーが1998年に提唱した環境保全と利益創出を同時実現する「環境経営」の知見による、社会革新への貢献が期待されている。

今後の目標や展望

最近、大手企業のお客様だけでなく、中小企業のお客様とお話をしても、脱炭素やCO₂削減といったキーワードをお聞きする機会が本当に増えてきました。また、昨今のエネルギー価格の高騰も相まって、お客様の経営課題になってきています。一方で、「なぜ“脱炭素”に取り組まないといけないの?」「何から始めればいいのか?」「社内で検討、推進できる人材がないよ」といったお悩みを抱えている方もいます。そこで、「環境経営のリコー」の知見とノウハウをベースに、自社の取り組みをさらに進化させ、お客様に寄り添って脱炭素経営のお手伝いをしたいと考えています。



清水 洋岐

パブリックサービス本部 スマートエネルギー事業部
脱炭素・エコソリューション事業企画推進室 室長

社会へのインパクト

自社のCO₂排出量

18,700 t

(2025年度目標、2015年度比40.9%減)

22,521 t

(2022年度実績、2015年度比28.8%減)

社内の取り組み事例

全国の移転・新設事業所のZEB*化

2019年にZEBリーディングオーナーに登録、2022年度までに11事業所でZEB認証を取得しています。脱炭素と働きやすさを同時に実現するモデル事業所の実践事例としてお客様にもご紹介し、省エネ・創エネ・蓄エネ等に関するノウハウを提案しています。

* Net Zero Energy Building:
エネルギーの収支をゼロにする建物



2021年12月オープンの北海道支社帯広事業所は「ZEB」を認証取得しました

マングローブ植林でCO₂削減に貢献

お客様とともにSDGsに貢献する活動の象徴として、2020年2月からマングローブ植林を始めました。省エネ性能の高い複合機を1台導入いただくごとに、東南アジアにマングローブを1本植林します。2023年3月までに累計31万本を植林しCO₂削減に貢献しています。



インドネシア「リコー ビンタンの森」では、成長したマングローブの根元に魚の姿も見え始めています

ガソリン使用量の削減

リコージャパンが排出しているCO₂の約2/3はガソリン消費によるもの。そのため、社有車の台数を減らす工夫やEV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリッド自動車）の導入、社員のエコドライブの意識改善などで、ガソリン使用量の削減を図っています。

鳥取支社は、EV・PHVの置き換えや共有車の活用により、2021年度は約26%（2019年度比）のガソリン使用量削減を達成しました



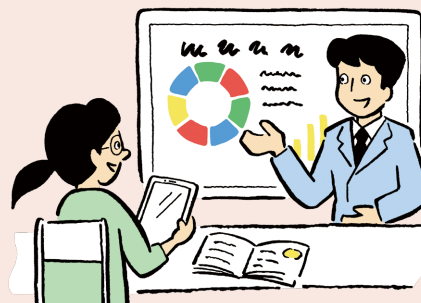
Web リコージャパン SDGs動画



質の高い教育をみんなに

持続可能な社会を実現するためには、次世代を担う子どもたちが現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、自ら問いを立てて行動していく力を育む「教育」こそが重要です。日本国内では、日本政府が提唱した持続可能な開発のための教育 (ESD*) をSDGsの17すべての目標の実現に寄与するものとして、学校教育でも、積極的に推進しています。リコージャパンでは、各地のSDGsキーパーソンが中心となり、子どもたちにSDGsの学びを届けています。

*ESD: Education for Sustainable Development



現状

広い視野で現代社会のさまざまな課題を認識し、持続可能な社会をつくる担い手の育成が必要になってきている。

解決策

持続可能な開発を促進するために必要な知識やスキルの習得を、企業が地域での実践者の視点で支援する。

リコージャパンへの期待

社内やお客様にSDGsの取り組みをお伝えするノウハウや、地域のネットワークを活かした教育への貢献が期待されている。

今後の目標や展望

教育現場では、持続可能な社会の担い手を育てる教育「ESD for 2030」の推進により、子どもたちが環境問題や社会問題について学ぶ機会が増え、SDGsへの関心も大変高くなっています。現在、リコージャパンではSDGsキーパーソンを中心に、出前教室や大学での講義など、児童や学生に向けた活動を推進するメンバーが社内で大勢います。今後、さらに多くの地域で子どもたちに向けた活動の場を広げていけるよう、SDGsキーパーソンのレベルアップを図っていきます。そしてより質の高い教育が届けられるよう自治体や教育機関、地域企業との連携も広げていきたいです。



小林 ひろみ
デジタルサービス営業本部
埼玉支社 事業戦略部
プロモーショングループ



社会貢献での取り組み事例

産学官連携による SDGs 出前教室

埼玉支社では、さいたま市環境局、埼玉大学との産学官連携にて、さいたま市内の小学校4~5年生を対象にしたSDGsの出前教室を行っています。2022年のプログラムの内容には小学校4年生の社会科で学ぶゴミの問題や、各学校が取り組みとして掲げているSDGs PRシートの内容も盛り込み、クラス単位で実施しました。講義の後半では5年生で学ぶ森林の循環についてふれた後、さいたま市環境局の職員の方と埼玉大学の学生さんにもサポートに入っただき、間伐材を使用した木のストローの作成を児童に体験してもらいました。



2022年11月に、さいたま市内の海老沼小学校5年生に向けて行ったSDGs出前教室の様子

子どもたちに伝える!一緒に考える!

SDGs 出前教室

長野支社では、未来を担う子どもたちに向けてSDGs 出前教室を開催しています。「SDGsの自分ゴト化・考えるきっかけをつくる」をテーマとしており、長野支社オリジナルの「デジタルのSDGs紙芝居」をメイン教材として用意。子どもたちが楽しくSDGsへの理解を深め、学校や保育園での学びだけで完結せずに、家族でも話し合いができるように工夫したプログラムとなっています。この取り組みは、「信州SDGsアワード2021企業の部」で長野県知事賞を受賞。2022年度は県内で6件開催しました。

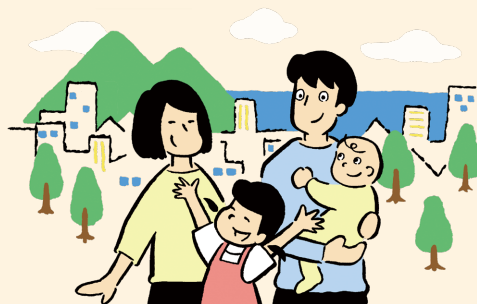


SDGs紙芝居は現在6話を作成。ゴール2の「おにぎり1個と地球3つのお話」は、食品ロスと3R (リデュース、リユース、リサイクル) がテーマ



住み続けられるまちづくりを

人口減少が進む日本社会において、過疎化する地域が増えることで、空き家の増加、商店の閉鎖、公共交通の利便性低下など住民生活における問題のほか、労働力の減少など産業基盤に関わる問題が起きています。リコージャパンはSDGsが目標とする「誰一人取り残さない持続可能なまちづくり」を実現するため、行政や企業、各種団体、市民の方々と多様なパートナーシップを結び、地域活性化に向けた最適なソリューションを提案しています。



現状

都市部に人口が集中し、過疎化が進む地域では経済の衰退、コミュニティの消滅など、さまざまな問題が顕在化している。

解決策

地域がそれぞれの自然や文化などの魅力を活かして、移住者や長期滞在者、旅行者を含む関係人口を増やす。

リコージャパンへの期待

デジタルサービスによる賑わいの創出、自治体サービスの充実、移住支援など、全国での先進事例の展開が求められている。

今後の目標や展望

私たちは地域における文化の魅力をデジタルコンテンツ・サイネージによって表現し、お客様だけでなく、地域の皆様に喜びや感動体験を作り出すことを心がけています。それぞれの地域社会に合った「環境」「賑わい」「安心・安全」の3つを軸とするデジタルサービスを中心に、プロダクト提案・アプリケーション・システム・コンテンツまでワンストップの専門チームで全国に提供し続けます。今後も地域の活性化のため、デジタル技術を活用した積極的な取り組みを進めます。



森谷 豊(左)
デジタルサービス企画本部 スマートコミュニケーション企画センター
コミュニケーション企画室 UC事業グループ

渡辺 圭介(右)
デジタルサービス企画本部 スマートコミュニケーション企画センター
サイネージコンテンツ企画室 デジタルサイネージ事業グループ

社会へのインパクト

地域・社会システムの維持発展・効率化による

生活基盤向上貢献人数

1,800万人

(2025年度目標)

▲
884万人

(2022年度実績)

お客様との取り組み事例

VRシアター空間演出

三重支社では国宝建造物のある真宗高田派本山専修寺様に新規宝物館(燈炬殿)建設に合わせ、「教えにであう宝物館」として最新技術とデジタルコンテンツの融合による360度のVR映像空間演出および床面映像演出を実施しました。お客様から「期待以上の完成度です」と感動・感謝をいただきました。



横幅約6m×高さ約4mの六角形の部屋に、6台のプロジェクターによるVR映像演出「バーチャルな極楽浄土」

博物館の来場者の満足度向上

沖縄支社では那覇市立壺屋焼物博物館様にリコーデジタルサイネージの仕組みを利用して映像シアター、映像解説設備を整備し、文化芸術発信拠点施設における多言語化およびユニバーサルデザイン環境を高めることに貢献しました。外国人を含め多くの来場者の満足度が上がりました。



横幅約5m×高さ約3mで映像投影し壺屋焼、壺屋地域の魅力などのサブストーリーを紹介

伝統を守る×新しいワークスタイル

栃木支社では、「鹿沼の三名園」の一つとして親しまれてきた庭園「掬翠園(きくすいえん)様」内にコワーキングスペースを構築。趣のある日本家屋の中には、枯山水の庭を眺めながらテレワークができる縁側や和室があり、伝統に触れながら働く新しいワークスタイルを提案しています。



古民家独特の雰囲気味わえるコワーキングスペース



お問い合わせ先

リコージャパン株式会社

経営企画本部 経営企画センター
コーポレートコミュニケーション部

〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2 芝公園ファーストビル

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/>

QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

その他、このレポートに記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

SDGsコミュニケーションブック 2023



●表紙イラスト

パラリンアート® (障がい者アート)

作品名：空中庭園ダイバーシティ

作者名：津谷 小百合

作者コメント：「この空中庭園には、人も人外も人種も性別も昼も夜もまぜこぜで存在している。差別のない、自分が自分らしく居られる、優しい居場所。それは、きっと遠くない未来の話。」

リコージャパンは(一社)障がい者自立推進機構のプラチナパートナーです。

サステナビリティレポート 2023



私たちの活動詳細をWebサイトでご紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/sustainability/report/>

